

なきごえ



1980

5

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物と私

松岡 貞 男



私は子供のころから動物が好きでしたが、生家は小さな商家で、庭らしい庭もなく、時おり、雑犬をもらってきたり、ハツカネズミを夜店で買ってきたりするくらいのことしかできませんでした。

それで、もっぱら動物園で、好きな動物に会うということになっていました。

といっても、家は、市内でも北の方にありましたので、せいぜい月に1〜2回くらいしか行きませんでした。

小学生のころは、大島正満先生の「動物物語」や「動物奇談」、また南洋一郎の「吼える密林」など動物の出でくる冒険小説を喜んで読みました。

樺島勝一さんの動物のペン画も、だいぶ模写しました。

「ドリトル先生」の本に河目梯二さんが、かわいい動物のさし絵を描いていました。

ドリトル先生みたいに、動物たちと話ができればどんなに楽しいだろうと思いました。

そこで、大きくなったら獣医になろうと心に決めました。

動物のコミュニケーションについては、色々な本があります。

私も小動物のクリニックの経験がありますので、犬や猫と、ある程度は意志の疎通はかれます。

しかし、人間同士のように、本当の意味で動物と話をすることは不可能だと判ったのはかなり後になってからでした。

中学校の図書室に、「石川千代松全集」や「シートンの動物記」が揃っていましたので教科の勉強はそっちのけで、毎日おそくまで図書室に残って、む

さぼり読みました。

理科の先生から、学生時代に舞鶴の冠島のオオミズナギドリを観察に行った話をしてもらいましたが、その当時、そこは要塞地帯になっておりましてので、5万分の1の地図も空白になっておりましてし、一般人の出入りできる状態ではありませんでした。

もっとも、足に長靴、胸に双眼鏡というバードウォッチングスタイルで、山や海岸を歩いたら、おそらく、スパイ容疑で逮捕されたと思います。

戦争中だったせいか、世の中が、それほど進んでいなかったのか、小・中学生のころは博物館も手近になく、「野鳥の会」とか「WWF」のような団体もなく、野外で実際の動物に当たって知識を高めるのではなくて、書物や写真や絵からの知識が殆どでした。

それで、あこがれの動物の実物に会えた時は、とても感激します。

戦後、東京の動物園で、初めて、ニホンカモシカを見た時、しばらく、オリの前から動けませんでした。

その足で、科学博物館へ行って、ニホンオオカミの剥製と骨格標本を見た時、再び感激しました。

いまだに余韻が残っているようです。

今も、旅行した時、動物園や類似の施設があると必ず入ってみることにしています。

新婚旅行の時も、わざわざ信州の小さな動物園に寄ったので、家内は、とても変わった男と一語になったと思ったそうです。

絵や写真で見たり、書物で読んだりした動物に初めて会う感激は、とても心地よいものです。

これからも、その感激を求めていきたいと思っています。

今、会いたいのは、オカビと、コモドオオトカゲと、マウンテンゴリラです。

(環境保健局東部市場 食品衛生検査所長)

なきごえ 5月号もくじ

動物と私	2
“アミメキリンさき子ちゃんの入園”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
春子さん、ユリ子さん、 来園30年をふりかえって	6・7・8・9
獣医室から	10
動物園ニュース	11

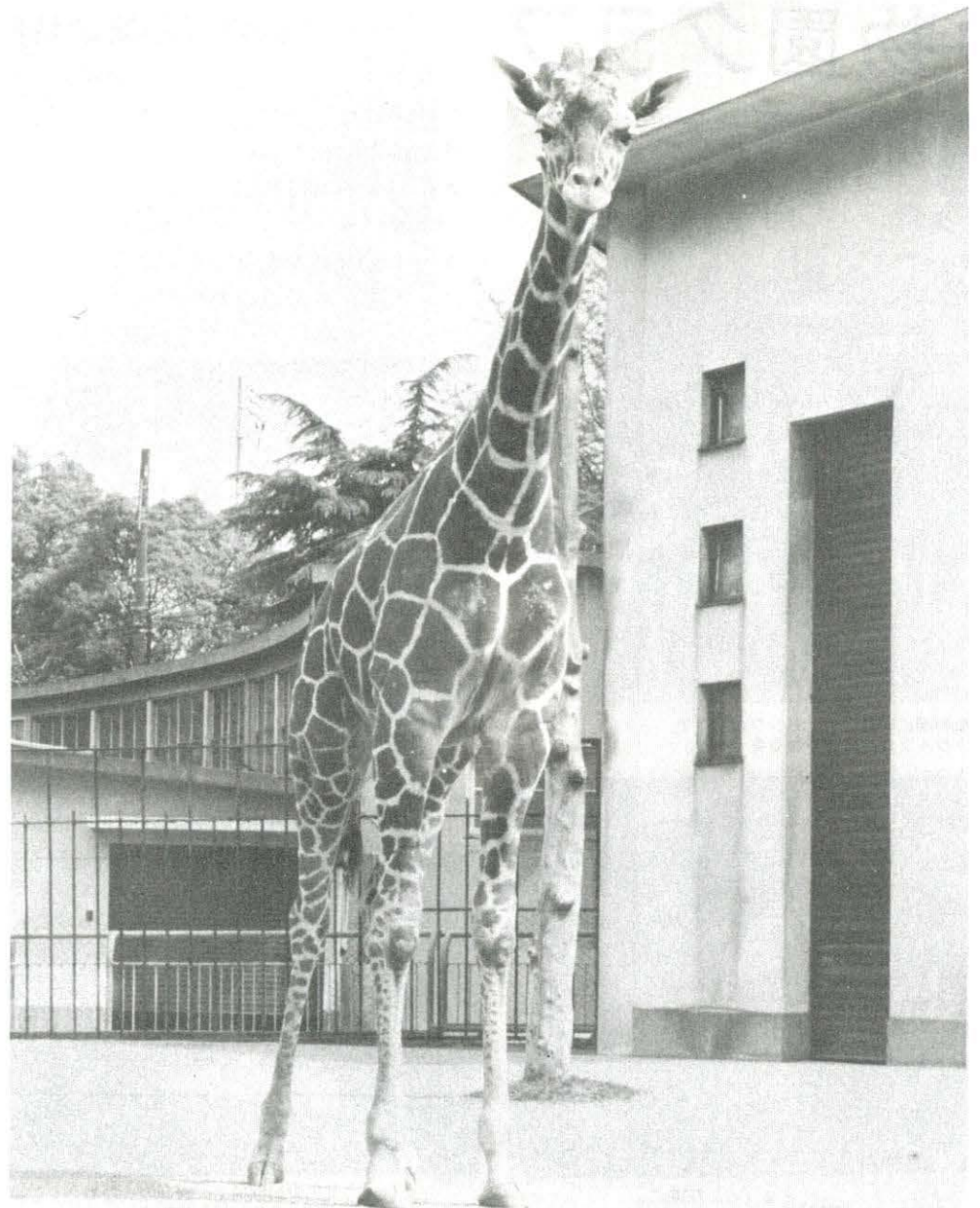
表紙の 写真説明

“インドゾウ”

右・春子 左・百合子

それぞれ昭和25年の4月と6月に来園し今年で丸30年、大した病気もせず天王寺動物園一番の人気者です。

(撮影：野口 秀 高)



“アミメキリンさき子ちゃんの入園”

4月21日にみさき公園からお嫁入りした(とはいってもまだ子供ですが…)“さき子”です。昭和53年9月18日生れの1才7ヶ月。おじさん、おばさんキリンよりまだまだ背は低いです。元気一杯色黒娘、まだなれないためちょっと憶病なさき子です。

(撮影：榊原 安昭)

動物園グラフ

“ゾウ来園満30年記念特集”

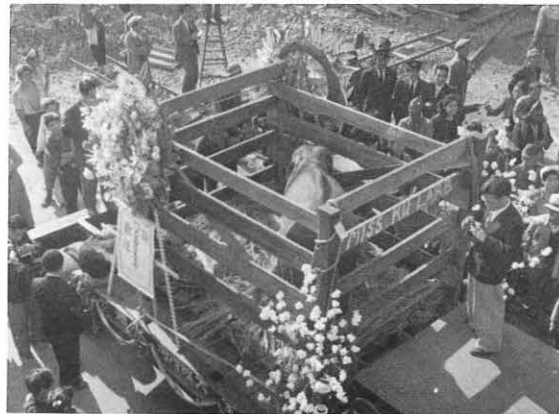
今年にはゾウの春子さん、百合子さんが入園して30年になります。敗戦からようやく立ちなおりかけた昭和25年に入園し大阪のよい子のみなさんのよき友だちとして元気に育ってきました。10年前には、ラニーひろ子さんも仲間に加わり、なかよく皆さんを待っています。このグラフでは、入園から最近までの写真のほんの一部をお目にかけます。(構成：樽本 勲)



動物園に到着、チェーンブロックでトラックから降ろされる春子さん。



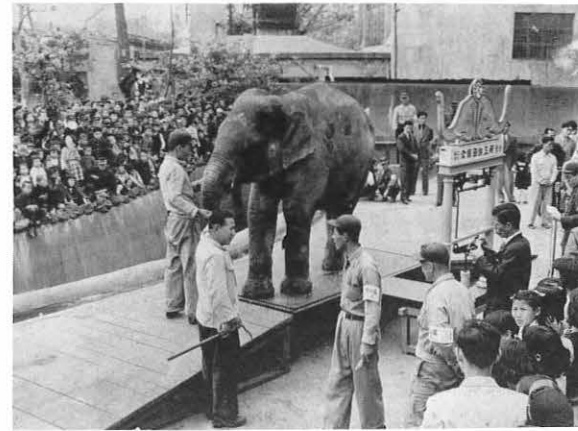
昭和25年4月14日、タイから大阪築港についた関西丸からトラックに積込まれる春子さん。



大きなトラックに小さなゾウ、花環にかこまれる、動物園で。



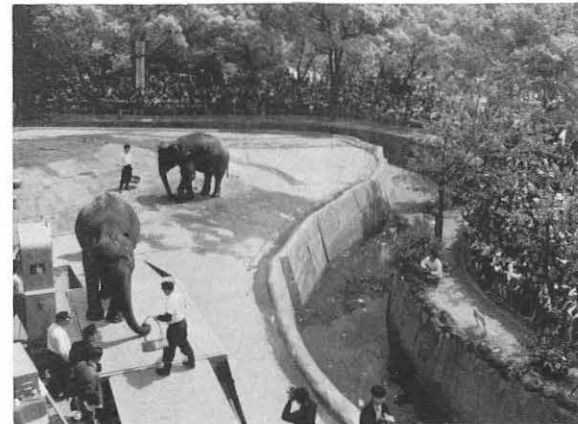
天王寺公園前で、観迎の人並でトラックはしばし立往生。



「象の目方を計る会」昭和30年代初め。



「象の目方を計る会」立派に成長して、昭和45年頃。



「象の目方を計る会」風景



最近のゾウファミリー右から、ユリ子さん、春子さん、ひろ子さん。

3・4月の動物園日記

- 3 / 21. イワシヤコが盲腸虫症のため死亡しました。嘴を折ったタンチョウに義嘴を取り付けるために型取りをしました。
- 24. ダチョウの雌が急性腸炎のため死亡しました。マレージャコウネコが急な冷えごみのため仮死状態になり入院しました。
- 25. パーバリーシープが雌の赤ちゃんを出産しました。昨日入院したマレージャコウネコは治療の

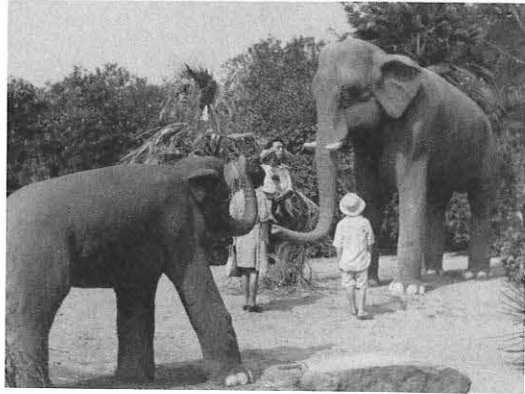
- 結果一時は意識がもどるまで回復したのですが、残念ながら肺炎のため死亡しました。
- 26. 最長老のアカカンガルーの雌が肺膿瘍のため死亡しました。タンチョウに義嘴を取り付けました。
- 27. ボンネットモンキーの雌が後足の麻痺のため入院しました。
- 28. 昨年6月に生まれたアシカの仔を餌付けのため隔離しました。アグーチ2頭が出園しました。ヤブツカツクリの雄が左翼を骨折したので治療しました。

- 30. 暖くなったので小鳥舎の暖房を中止しました。
- 4 / 2. フンボルトペンギンの雛が2羽孵化しました。
- 4. アシカの仔の餌付けがうまくゆかないのでアシカ池へもどしました。
- 10. 先日から入院していたボンネットモンキーが肺膿瘍のため死亡しました。
- 12. ベニジュケイの雌が肺出血と盲腸虫症のため死亡しました。
- 15. タンチョウの義嘴を作りなおすために再び型取りをしました。

- 本年はじめてのキジの一種であるハクカンが1羽ふ化しました。
- 16. ベニジュケイが産卵しました。
- 17. キョンが肺出血のため死亡しました。
- 18. ハシブトインコが死亡しました。このインコは、日本の動物園で只1羽飼育されていたものです。
- 21. 血液更新のためみさき公園から1才半の雌のキリンが入園しました。

春子さん、ユリ子さん、来園30年をふりかえって

日本が太平洋戦争に敗れてから、衣食住どれをとっても不足していて気持ちすさんでいたが、やっと日本人として昔の気持ちを取り戻しかけたのが昭和23年の末頃だったと思います。それと同時に動物に対する愛情も再びめざましてきたのです。その時の動物園の状態は荒廃したもので、園路はイモ畑、猛獣舎にはブタ、ニワトリ、アヒルなどが入っていた。こんな状態だから当時の新聞記者は動物園でなく養鶏園だとか静物園だとか悪口をたたいたものであった。



生きたゾウのいない間はコンクリート製のゾウが代役

敗戦前後約7年間は、名古屋の動物園に2頭のゾウが生き残っただけで、他には生きたゾウが見ることができなかったのです。名古屋はジャガイモの産地に近く、餌に困らなかったのが、あの巨体を生きながらえることができたのだが、他の都市の動物園では、たいてい餌不足で餓死に追いやられてしまったのです。

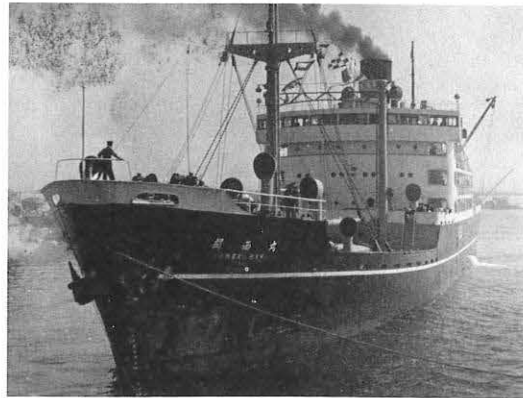
ようやく動物への愛情を取り戻しつつあった頃で、絵本しかゾウを見られない子供たちから、「生きたゾウを見たい!!」という声が全国的にわき上がってきた。ゾウを見たいという子供たちの声におされて、国鉄がゾウ列車を仕立てたくらいで、北は北海道から、南は九州からはるばるゾウ見たさに名古屋までどンドン見に行ったようなことであった。

その時、日本を訪れていたインドのネール首相が「生きたゾウを見たい」という子供たちの声をお聞きになり、それでは、日本の子供たちにゾウをプレゼントしましょうということになったのです。パンダではないが首都ということで上野動物園にこのゾウが戦後初めて入園した。昭和24年のことで、いまも健在のインディラさんです。

東京にゾウが来たということで、大阪の動物園としては「何をボヤボヤしとるんや」と新聞で大いにたたかれたりした。ちょうど、大阪の長堀橋に住んでおられた北庄司さんからこうした新聞を見て、「それでは私がゾウを寄贈しましょう」という申出が動物園にあったのです。北庄司さんは、戦前からタイに貿易商として20~30年も滞在し、軍靴などの軍用の皮革類を扱っておられたようです。それでタイには知人も多くおられたのでしょう。

この申出に動物園としては、たとえようのない喜びでありました。それから1年半、「大阪にもゾウが来る」というような記事が連日新聞に出た。毎日、毎日、市民から「ゾウはいつ来るのか」という問い合わせが動物園に殺到して、私らは対応にテンテコ舞いだった。この間に3~4度デマもとんだ。「もうすでにゾウが船に乗って、ボチボチこちらに来ます」というような内容で、どこから出たのか知らないが、これを打消すのに大変苦労した。そのうちある新聞社は「本当にゾウが来るのか」ということで怒り出したことさえあった。

そうこうしているうちに、とうとう「積み込んだ」という電報が入ったのです。これが入園する1ヵ月



関西丸が入港した

前のことであった。これで本物だということになって、やっと一安心したものです。

いよいよゾウが来るということで、その受入れのためにゾウ舎の小修繕が始まった。戦争中の18年にゾウが死んでから物置となっていたゾウ舎の寝室はかたづけられ、タイの暑い気候から来るゾウのために、暖房装置もととのえた。戦後、動物園の動物舎の修繕費用が出たのはこのときが初めてでもあった。新

たにボイラーマンも4名も採用された。

ゾウは、関西汽船の関西丸という船のデッキに乗せられて、昭和25年4月14日に大阪の築港についた。動物園からわざわざタイにまでゾウを迎えに行くという余裕があったわけではありません。たまたま大阪市の商工課におられた石川多賀夫氏が、タイに仕事で出張された帰りにこのゾウをつれて帰っていたのだのです。今の本市の助役で、今だに会うたびに「ゾウは元気か」と気にかけてたずねてくれますので、このゾウとの船旅はよほど印象に残っておられるのだと思います。

大阪港に私(寺内)も迎えに行ったが、無事ついてくれるよう大変心配していましたから、デッキでゾウの顔を見て一安心しました。私(中川)は輸送の担当ということで、ゾウのある程度の成体の4トンくらいを想定して10トントレーラーを用意させたものだった。私もデッキで見ると、それはそれはかわいいゾウで、私が座って眼の高さくらいに象の背中が



ゾウとの対面、関西丸のデッキで。

あった。まだうぶ毛が体じゅうに生えていた。

大阪港から境川を経て天王寺まで、大きなトレーラーにゾウをちょこんと乗せて行進が出発した。当時の市電はゾウのお通りで全面ストップし、出迎えの人々が沿道を埋めつくした。中には日の丸の小旗をふって出迎える人々も見られた有様であった。これはおそらく何十万人という人出だったろうし、警備の警官もわんざと出動した。

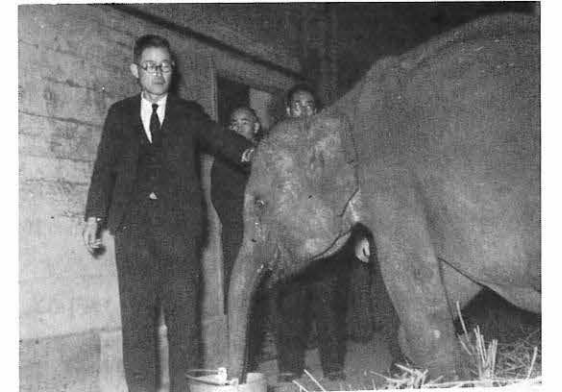
ゾウというものは大きいものだという印象が一般に強いのに、大きなトレーラーに乗せられた仔象では、木箱に入れられて出迎えた沿道の人々からよく見えない。どこにゾウがいるの?という小言まで聞

く仕末であった。

たしかに人々はゾウのこどもは見たことがなかったに違いないし、1年半もの「ゾウが来る」との前宣伝で、大きな大きなゾウを頭にえがいていたのですから。

タイからこのゾウについてチョン・ナンカン、オーチットンという2名のゾウ使いもついて大阪入りした。約1ヵ月大阪にいて、動物園でもゾウの扱いを指導してくれたりした。

動物園に着いたゾウはトレーラーから、大きな丸太を組んで滑車で檻をつり上げて降した。そして、ゾウ舎に無事入れることができた。入ったときにはサトウキビと砂糖水をバケツ1杯与えた。これが動物園最初の餌であった。



ゾウ舎に落ちついてまづ砂糖水を1杯

さて、新聞も一せいにゾウの入園を報じた。「よみがえる動物園」というふうな大見出しだった。人々は「天王寺動物園に行こう」というのでなしに、「ゾウの来た動物園に行こう」というくらいのものであった。



南門の観迎アーチ

ゾウが到着したのが4月14日で、翌15日にゾウの歓迎大会を行ないました。贈り主の北庄司昇太郎氏も来園し、本市側から栗本助役や浦上土木局長が出席し、旧のステージで行った。また、4月16日には、同じくステージで、ゾウさん歓迎歌の発表会も子供大阪新聞社の主催で行なわれた。このゾウの寄付をした北庄司氏には謝礼として、当時の金で75万円を出している。これがこのゾウの評価額になっている。

ゾウの来園した翌々日の4月16日は日曜日であった。この日は、また初夏を思わせる好気分で、開園前には天王寺公園の図書館の坂の上まで4～6列くらいでずーっと行列が続いた。さらに開園と同時にどんどん客が殺到し、まともに切符も売れない状態であった。出札の窓は破られるし、「ドンドン入れろ」という待ちくたびれた人々の怒号はとぶわであった。切符を買いこんでプレミアムまでついたという伝説もある。当時の外周柵は鉄柵で破れ目もあったし、この柵を乗り越えて大人や小人がだいぶ入ってしまったようである。中央門前は人、人、人で出札の窓口ではさばき切れず、改札のところに15～16人の職員が出て現金と引きかえに入園ということでさばいた。当時の入園料は大人20円、小人10円であったが、100円を出して釣はイランという人もいたし、タダで入ろうという人もいた。

私（中川）がその時印象に残っているのは、事務

所にいると親子づれのみすぼらしい人が来て、自分はまづしくて入場料が払えないけれど、子供がゾウを見たいとせがむので何とか入園させて欲しいとたのみこまれた。私は、心よくどうぞゾウさんを見てやって下さいと入れてやったものでした。



ゾウを見ようと中央門に押しかけた人々

その日の入場者が約10万人以上で園内はぎっしり超満員であった。迷子も183名という記録で放送嬢も声がかれてしまう忙しさであった。

その後もこんな状態で入園者が続いたが、16日のいろいろな記録はもう破られないだろうと思う。

名前は市民から募集し、春に来たから春子というのに決まったもので、5月5日に命名式を行なったのです。このときアトラクションとしてゾウの目方を計ることになり、春子は、503kgあったと記憶して

いる。この計量が毎年5月5日に続けられることになった。これも待ちに待ったゾウを大切に育てていこうということで、ゾウの健康のパロメーターとして大事な行事となって行った。春子などは、1日に約1kgづつ増えて1年に350～360kg増えたりした。

ゾウの百合子が入園したのは、その年の6月5日でこのときも一般から名前を公募したのです。入園時は、やはり2番せんじというかそう大きな反響がなかったように思う。

春子も百合子も暖かくなっていく季節に入園させたのでわりに順調に育った。毎日、新聞がゾウの動静記事を取りあげて書いていた。

冬は、現在のシャッターのところにガラス戸をはめて、客は空堀に橋をかけて渡ってもらい、運動場からガラス越しに見せたものです。来園2～3年の冬はこんな展示をしたように思う。もちろん、キリン舎横のボイラー室からスチームを引っ張って昼夜つきっきりで面倒を見たのです。

初代の飼育係は前田為吉という人で、この人は元気があって訓練が上手であった。25年当時は終戦直後のきびしい食糧難からやっと回復してきており、ゾウの餌だけは、飢えさせないように充分確保した。毎日、朝早くから中央市場へ肩引き車を引いて買い出しに行っておった。

あるとき疝痛をおこした、冬の寒いときだったが、キーパーと私（中川）は、春子の両側の腹をワラでござごしとこすってやった。汗で身体中がベトベトとなってしまった。ゾウは小さい間は胃腸がどうしても弱いもので、小さい間は充分気をつける必要があった。また、客のいたづらで投げ込まれたハリガネを踏んで足のうらにささって跛行したりした。また、ときどきユリ子とジャレて堀に落ちたりもした。大きくなってからだったが、正月の10日だったか、からのプールに落ちて右前肢の関節が腫れて湿布したり、ペニシリンを注射したりした。これも10日間くらいで快方に向った。体重の重い動物は、足の故障は命取りになるので心配しました。

春子とユリ子は非常に仲が良く、春子を運動のために園内に連れ出そうとすると百合子がウォーと鳴いてなかなかつれ出せないほどであった。

入園後の最初の冬は、暖房してやってもブルブル

ふるえてなかなか寝なかった。とくに後足はブルブルのひどかったのを覚えている。宿直で夜間に巡回すると初めは近づく足音でバサーとはね起きていたゾウも、だんだん慣れてそばによってもイビキをかいて寝ていたり、小山のような体をゆすって眼だけ開いてこちらを見ていたりした。また、寝ながらブルブルと放屁していたものだ。

12～13才頃になると発情のしるしであるルビー色の液が眼の横の腺からながれ出るのを見たときには、これでやっと一人前になったのだなあーとしみじみこみ上げてくるものがあった。

春子は、小さいときからかわいがられた反面、大変きびしいしつけをした。これは、大きい動物になるので、将来的に扱いやすいようにということであった。キーパーにちょっとでも反抗的になるとすぐさま手鉤が春子の臀に飛んだ。こうして大きくなったので、今のおとなしさがあると思う。

その点、ユリ子は性格もヤンチャではあったし、少し手ぬるい調教であったので、今の性格があるのだと思う。

現在では、冬の寒さでもシャッターを降さずにすごしているくらい大阪の冬に慣れています。10年前、万博に参加したインド政府から贈られたインドゾウのラニーひろ子という仲間ができ、大変賑やかになった。

ともあれ、すくすくと育ってくれたことを喜んでいます。このうちは、ゾウの寿命の70才までまだだいぶあるが、元気に生きて21世紀を迎えて欲しいと願っています。できたら、当時つれてきてくれたタイの人たちや、関係者の皆さんに現在の姿を見て欲しいと願っています。

ゾウは、人気投票のいつも第1位をしめる動物で、永く大阪の子供たちのよき友達としてすごして欲しいと思っています。

おわり

（文責 樽本 勲）

寺内信三元園長、和田辰己元園長、中川道朗前園長に春子さん、ユリ子さんについての思い出話をそれぞれお話ししていただいたのをまとめたものです。

インドゾウの体重及増減

天王寺動物園

年度	春子 体重	百合子 体重	ラニー博子 体重	年度	春子 体重	百合子 体重	ラニー博子 体重	年度	春子 体重	百合子 体重	ラニー博子 体重
25	503 ^{kg}			35	2,250 ^{kg}	1,920 ^{kg}		45		3,150 ^{kg}	
26	803	390		36	2,630	1,960		46		3,320	560
27	1,375	898		37	2,810	2,160		47		3,650	810
28	1,430	1,014		38	3,000	2,440		48		3,780	1,060
29	1,752	1,198		39	3,240	2,510		49			1,340
30	1,990	1,427		40	3,440	2,590		50			
31	2,114	1,596		41	3,510	2,790		51			
32	2,322	1,732		42	3,530	2,910		52	4,510	4,180	1,910
33	2,460	1,843		43	3,580	2,930		53	4,140		2,060
34	2,540	1,830		44		3,140		54	4,080		2,240

獣医室から ②5

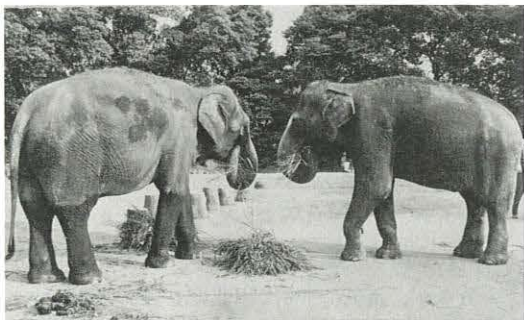
ゾウよもやま話

§ インドゾウの歴史

天王寺動物園には大正4年1月1日の開園時にすでにゾウが飼育されていました。というのは天王寺動物園の前身である大阪府立博物場附属動物檻（明治17年開設）の時代からゾウが飼育されており、大阪府から大阪市へ移管された際、動物檻から天王寺公園の一角に建設された動物園までゾウが歩いて引っ越したという記録が残されているからです。この初代のゾウには団平という名前がついていました。以後、大正15年にトキワ、昭和10年にランブーンと代を重ね、戦後は昭和25年に春子、百合子と2頭が相ついでお目見えし、昭和45年にラニー博子がインド政府から贈られてきました。

§ ゾウの飼育メモ

春子、百合子とも体重4トンを超え、博子も2トンを超える超大型の動物だけに、その飼育管理も大変です。1日に食べる餌の量もサツマイモ12kg、ジ

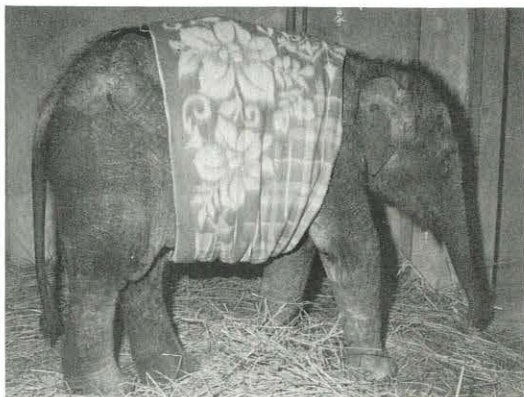


ャガイモ15kg、ニンジン5kg、牧乾草40kgと72kgも1頭で食べ、1日の食事代も1頭当り約6,500円で、動物園一の大食漢です。主食の根菜、乾草以外にも時折、パンやリンゴなども与えられますが、特に博子はまだ育ちざかりだけに、栄養補給のために今年から豆乳を週3日、1日10ℓ与えています。3頭の特徴は春子は従順でおとなしく、やさしいお姉さんタイプで、百合子はいたずら好きのあわてん坊で、そのためか以前は堀に落ちて上れずに困ったこともありました。博子は末っ子のさみしがりやの甘えん坊といった感じです。

§ ゾウの病気あれこれ

あの巨体を支える足の病気は、ヘタをすると命とりになりかねないだけに、足の治療には最善の努力がはらわれます。過去、3頭共打撲傷や捻挫あるいは足の裏に何か刺さったりとかで足を痛めたことがありましたが、治療の介あって大事に至らず幸いでした。かなり以前のことで、春子が堀に落ちたことがあります。——ゾウは体の大きさに似ず細心の注意力を持つ動物で、堀に落ちることはめったにないのですが、春子も百合子もおうちよこちよいなのか、数回落ちています。——その時も足を痛め、湿布をしたり注射をしたそうですが、春子が子ゾウだったからできたことで、もう一人前のゾウに成長した現在、飼育担当者以外はととも近寄せません。

また博子は入園した当時はまだ離乳まもない頃だ



ったのか、よく下痢をしました。投薬とともに、毛布を腹巻きがわりに巻いたこともあります。

ここ7年間の診療カルテを見ましたが、ゾウのカルテは数えるほどしかなく、ゾウの体の丈夫さがうかがえます。この7年間の病気らしい病気は、百合子の下痢、足の裏の外傷、博子の関節痛、3頭共通の寄生虫症（円虫 *Murshidia falcifera* が腸に寄生）と数えるほどしかなく、いずれも適切な飼育管理、治療により快癒しています。ゾウの寿命は60~70年といわれていますが、春子、百合子もやっと半分を過ぎたところだけに、残り半分も健康に暮らして天寿をまっとうしてほしいものです。

（飼育課：宮下 実）

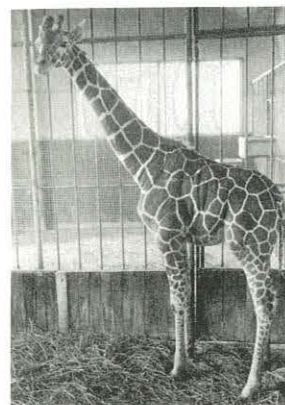
動物園ニュース

§ バーバリーシープ出産

エイプリルフルの4月1日、バーバリーシープにまた1頭赤ちゃんが生まれました。今度の仔はメスで、3月10日生れのメス、3月15日生れのオス、3月25日のオスと合わせ、オスメス各2頭、合計4頭の赤ちゃん集団となりました。御来園の際はピョンピョンと元気一杯にはね廻るこの可愛い赤ちゃん集団を是非御覧下さい。

§ ベニジュケイ産卵

4月16日、ベニジュケイが産卵しました。昨年は14個の産卵を見、3羽のヒナの成育に成功して日本



動物園水族館協会から繁殖賞が授与されることになっているベニジュケイですが、今年も多いに期待が持てそうです。

§ キリン入園

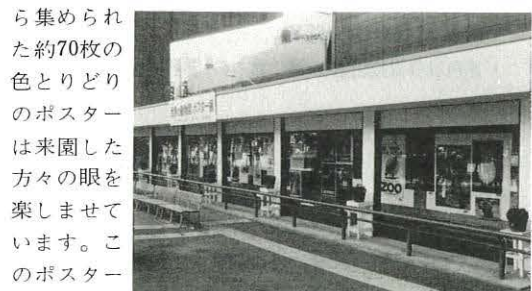
4月21日、メスのキリンが入園しました。キリン舎はタイチャンが出園し、残ったのはオスのタカオとメスのリッコの2頭だけと、



へ出されました。初めて見る外の世界に最初は戸惑い気味でしたが、ママの陰にかくれながらすぐプールへ。しかし、プールへ入って落ち着いたのか、その後はママと運動場へ上つてのんびり日光浴。初めてのオンモを充分楽しんだようでした。

§ 世界の動物園のポスター展開催

4月27日から北園展示館で世界の動物園のポスター展が開かれました。10ヶ国の主要な17の動物園から



集められた約70枚の色とりどりのポスターは来園した方々の眼を楽しませてくれます。このポスター

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

ゾウよもやま話

§ インドゾウの歴史

天王寺動物園には大正4年1月1日の開園時にすでにゾウが飼育されていました。というのは天王寺動物園の前身である大阪府立博物場附属動物檻（明治17年開設）の時代からゾウが飼育されており、大阪府から大阪市へ移管された際、動物檻から天王寺公園の一角に建設された動物園までゾウが歩いて引越したという記録が残されているからです。この初代のゾウには団平という名前がついていました。以後、大正15年にトキワ、昭和10年にランプーンと代を重ね、戦後は昭和25年に春子、百合子と2頭が相ついでお目見えし、昭和45年にラニー博子がインド政府から贈られてきました。

§ ゾウの飼育メモ

春子、百合子とも体重4トンを超え、博子も2トンを超える超大型の動物だけに、その飼育管理も大変です。1日に食べる餌の量もサツマイモ12kg、ジ

§ ゾウの病気あれこれ

あの巨体を支える足の病気は、ヘタをすると命になりかねないだけに、足の治療には最善の努力がはらわれます。過去、3頭共打撲傷や捻挫あるいは足の裏に何か刺さったりとかで足を痛めたことがありましたが、治療の介あって大事に至らず幸いでした。かなり以前のことで、春子が堀に落ちたことがあります。——ゾウは体の大きさに似ず細心の注意力を持つ動物で、堀に落ちることはめったにないのですが、春子も百合子もおっちょこちょいなのか、数回落ちています。——その時も足を痛め、湿布をしたり注射をしたそうですが、春子が子ゾウだったからできたことで、もう一人前のゾウに成長した現在、飼育担当者以外はとて近寄れません。

また博子は入園した当時はまだ離乳まもない頃だ



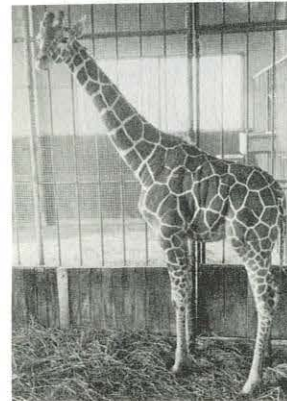
動物園ニュース

§ バーバリーシープ出産

エイプリルフルの4月1日、バーバリーシープにまた1頭赤ちゃんが生まれました。今度の仔はメスで、3月10日生れのメス、3月15日生れのオス、3月25日のオスと合わせ、オスメス各2頭、合計4頭の赤ちゃん集団となりました。御来園の際はピョンピョンと元気一杯にはね廻るこの可愛い赤ちゃん集団を是非御覧下さい。

§ ベニジュケイ産卵

4月16日、ベニジュケイが産卵しました。昨年は14個の産卵を見、3羽のヒナの成育に成功して日本動物園水族館協会から繁殖賞が授与されることになっているベニジュケイですが、今年も多いに期待が持てそうです。



動物園水族館協会から繁殖賞が授与されることになっているベニジュケイですが、今年も多いに期待が持てそうです。

§ キリン入園

4月21日、メスのキリンが入園しました。キリン舎はタイチャンが出園し、残ったのはオスのタカオとメスのリッコの2頭だけと、大変淋しくなっていたのですが、これで以前のにぎやかさが戻りました。このキリンは大阪府下のみさき公園自然動物園で一昨年9月に生まれたものです。この号が出る頃にはタカオやリッコと一緒にお目見えできると思います。

§ オオサイチョウ放飼

1月29日に入園していたオオサイチョウ2羽を4月21日サイチョウ舎へ放飼しました。この2羽は真冬に入園した為、大事をとって暖い室内でこの日まで飼っていたものです。出されたオオサイチョウは3ヶ月振りの野外の空気に触れ、はじめは戸惑い気味でしたがすぐに慣れ、他のサイチョウ達と舎内を元気に飛び廻っています。



§ ジュンチャン登場

昨年11月6日、オスのカバの仔が生まれたことはもうお知らせしましたが、このカバの赤ちゃん、ジュンと名付けられ、ベテランママのデブ子の熱心な育児もあってスクスクと育っていました。そして、そろそろ暖かくなりはじめた3月20日、初めて運動場



へ出されました。初めて見る外の世界に最初は戸惑い気味でしたが、ママの陰にかくれながらすぐプールへ。しかし、プールへ入って落ち着いたのか、その後はママと運動場へ上ってのんびり日光浴。初めてのオンモを充分楽しんだようでした。

§ 世界の動物園のポスター展開催

4月27日から北園展示館で世界の動物園のポスター展が開かれました。10ヶ国の主要な17の動物園から集められた約70枚の色とりどりのポスターは来園した方々の眼を楽しませてくれます。このポスター展、5月8日まで開催予定です。



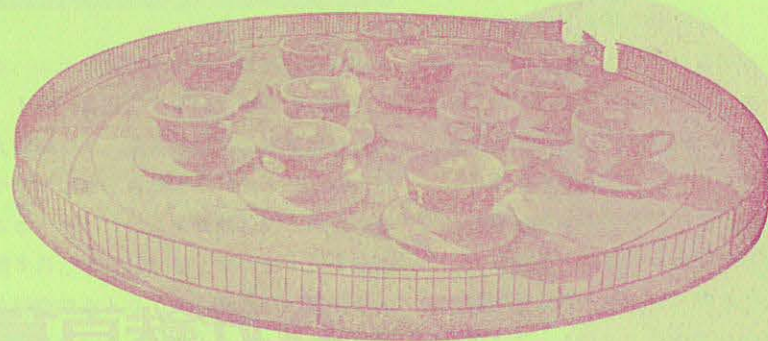
§ 春の動物園まつり

さる4月27日から5月5日まで「春の動物園まつり」が開催されました。期間中、無料相談コーナー、幼稚園児の遊戯、紙しばいと人形劇、ボランティアによる動物クイズなどの催物が行われました。同時に、この期間中、入園者に対し、「ゴミのないきれいな動物園づくり」の協力を呼びかける「動物園クリーンキャンペーン」を実施しました。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。8月までの休園日は下記の通りです。
5月19日(月)、6月16日(月)、7月21日(月)。
開園時間は9時半～5時で、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和55年 5月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

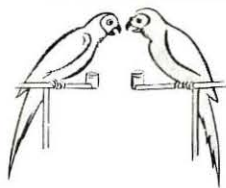
第16巻第5号(通巻177号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

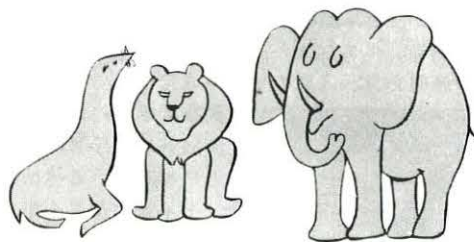
1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・柳原 安昭・樽本 勲・土井 良彦・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・霞谷 文彦・仲谷 登